

各 位

平成 22 年 10 月 14 日
東京都港区六本木六丁目 1 番 20 号
株式会社ワイズテーブルコーポレーション
代表取締役会長兼社長 金山 精三郎
(コード番号: 2798 東証マザーズ)
問い合わせ先 取締役 吉田 茂
(TEL 03-5412-0065)

特別損益の計上及び平成 23 年 2 月期第 2 四半期累計期間（個別・連結）の業績予想 と実績値との差異並びに通期（個別・連結）業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 23 年 2 月期（平成 22 年 3 月 1 日～平成 23 年 2 月 28 日）において、下記のとおり特別損益を計上するとともに、平成 22 年 7 月 7 日に公表しました平成 23 年 2 月期第 2 四半期累計期間（個別・連結）業績予想と実績値との差異が生じたのでお知らせいたします。併せて、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 22 年 7 月 7 日に公表しました通期（個別・連結）業績予想につきまして、下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

(1) 店舗固定資産の減損損失

当社で展開する店舗「XEX CLUB HOUSE」の店舗資産等に対して減損処理を行なった結果、当社の個別決算において減損損失168百万円を特別損失に計上いたしました。

また、当社の孫会社であります和伊授桌餐飲管理(上海) 有限公司で展開する店舗「Y' s table Dining & The BAR」の店舗資産等に対して減損処理を行なった結果、減損損失217百万円を特別損失に計上いたしました。そのため、連結決算上は、合計で386百万円の減損損失を計上いたしました。

(2) 子会社株式評価損

上海において大型複合レストラン「Y' s table Dining & The BAR」を展開する和伊授桌餐飲管理(上海) 有限公司の業績不振に起因して、当社の個別決算において子会社株式評価損211百万円を計上いたしました。なお、個別決算で計上する子会社株式評価損は、連結決算上消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

(3) 貸倒引当金繰入額

過去に当社の子会社で生花小売・ブライダル装花事業を展開しておりました㈱フローリィネットに対する貸付債権に対し、貸倒引当金繰入額50百万円を特別損失に計上いたしました。

2. 特別利益の計上について

固定資産売却益

当社グループは、外食事業としまして高級複合レストラン「XEX（ゼックス）」やカジュアルイタリアンレストラン「PIZZA SALVATORE CUOMO」等のレストランの運営を行なっておりますが、カジュ

アルイタリアンレストラン事業の強化の一環で資産配置の見直しを行った結果、グループ内での商標権の保有に関する最適化を図ることを目的として、平成 22 年 9 月に当社が保有しております商標権の一部を当社子会社であります㈱SALVATORE CUOMO JAPAN に譲渡しております。この結果、平成 23 年 2 月期の第 3 四半期の個別決算上、固定資産売却益 123 百万円を計上する見込みであります。なお、個別決算で計上する固定資産売却益は、連結決算上消去されるため、連結業績に与える影響は軽微であります。

3. 第 2 四半期累計期間（個別・連結）業績予想と実績値との差異について

(1) 第 2 四半期累計期間（個別）（平成 22 年 3 月 1 日～平成 22 年 8 月 31 日）（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益 (△損失)	経常利益 (△損失)	四半期 純利益 (△損失)	1 株当たり 四半期 純利益 (△損失)
前 回 発 表 予 想 (A)	2,771	△73	△80	458	円 銭 17,526 81
今 回 実 績 値 (B)	2,664	△214	△224	△139	円 銭 △5,334 29
増 減 額 (B－A)	△106	△140	△143	△597	—
増 減 率 (%)	△3.9	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 2 月期第 2 四半期累計期間)	2,930	△215	△129	△145	円 銭 △5,553 39

(2) 第 2 四半期累計期間（連結）（平成 22 年 3 月 1 日～平成 22 年 8 月 31 日）（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益 (△損失)	経常利益 (△損失)	四半期 純利益 (△損失)	1 株当たり 四半期 純利益 (△損失)
前 回 発 表 予 想 (A)	7,253	△22	△31	322	円 銭 12,343 95
今 回 実 績 値 (B)	6,929	△162	△181	△336	円 銭 △12,876 87
増 減 額 (B－A)	△323	△139	△149	△659	—
増 減 率 (%)	△4.5	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 2 月期第 2 四半期累計期間)	7,558	△86	△92	△256	円 銭 △9,819 41

(3) 業績予想と実績値との差異が生じた理由

<個別>

売上高は2,664百万円（前回予想比3.9%減少）、営業損失は214百万円（前回予想営業損失73百万円）、経常損失は224百万円（前回予想経常損失80百万円）、四半期純損失は139百万円（前回予想四半期純利益458百万円）となりました。

個別の第2四半期累計期間の業績につきましては、高級複合レストラン「XEX」を中心に既存店の

売上高が低調に推移し当初予算を下回ったこと、また既存店のコスト削減が進み収益性は確実に改善してきているものの、ブライダル事業を強化すべく当期から本格的にブライダル事業部を上げたことに伴い、広告費等の先行して発生するコストの負担が増加したことにより、営業損失は214百万円となりました。また、平成22年3月17日付「特定子会社の異動を伴う株式譲渡および特別利益の計上に関するお知らせ」にてお知らせしましたとおり、当上期において施設管理事業を展開するタカラビルメン(株)の全株式を売却したこと及び、平成22年7月7日付「子会社株式の一部譲渡及び譲渡に伴う特別利益の計上並びに業績予想の修正に関するお知らせ」にてお知らせしましたとおり、当上期において(株)SALVATORE CUOMO JAPANの株式の一部売却により、当社個別決算上、総額で548百万円の子会社株式売却益の計上があるものの、「1. 特別損失の計上について」に記載のとおり、店舗資産に対する減損損失168百万円の計上、子会社株式評価損211百万円の計上、貸倒引当金繰入額50百万円の計上があったため、法人税等を控除した四半期純損失は139百万円となりました。

<連結>

売上高は6,929百万円（前回予想比4.5%減少）、営業損失は162百万円（前回予想営業損失22百万円）、経常損失は181百万円（前回予想経常損失31百万円）、四半期純損失は336百万円（前回予想四半期純利益322百万円）となりました。

第2四半期連結累計期間の業績につきましては、全社的に売上予算を下回る中で、カジュアルイタリアンレストラン「PIZZA SALVATORE CUOMO」を展開する(株)SALVATORE CUOMO JAPANについてはコスト削減が進み、利益予算を大幅に上回りましたが、当社個別の要因に加え、上海に大型複合レストランを展開する和伊授桌餐飲管理(上海)有限公司の予算未達の影響から、営業損失は162百万円、経常損失は181百万円の計上となりました。なお、タカラビルメン(株)の全株式の売却及び(株)SALVATORE CUOMO JAPANの一部株式の売却による連結上の子会社株式売却益の総額は430百万円となりましたが、「1. 特別損失の計上について」に記載のとおり、店舗資産に対する減損損失386百万円の計上、貸倒引当金繰入額50百万円の計上があるため、法人税等を控除した四半期純損失は336百万円となりました。

4. 通期（個別・連結）業績予想の修正について

(1) 通期（個別）（平成 22 年 3 月 1 日～平成 23 年 2 月 28 日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益 (△損失)	経常利益 (△損失)	当期 純利益 (△損失)	1 株当たり 当期純利益 (△損失)
前 回 発 表 予 想 (A)	6,253	37	25	549	円 銭 21,015 82
今 回 修 正 予 想 (B)	5,765	△169	△177	15	円 銭 591 82
増 減 額 (B－A)	△488	△206	△202	△533	—
増 減 率 (%)	△7.8	—	—	△97.2	—
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 2 月期通期)	5,849	△387	△353	△919	円 銭 △35,171 80

(2) 通期（連結）（平成 22 年 3 月 1 日～平成 23 年 2 月 28 日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益 (△損失)	経常利益 (△損失)	当期 純利益 (△損失)	1 株当たり 当期純利益 (△損失)
前 回 発 表 予 想 (A)	15,656	311	297	522	円 銭 19,999 59
今 回 修 正 予 想 (B)	14,346	55	39	△275	円 銭 △10,557 53
増 減 額 (B－A)	△1,309	△256	△258	△798	—
増 減 率 (%)	△8.4	△82.3	△86.8	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 2 月期通期)	15,009	△194	△219	△581	円 銭 △22,243 74

(3) 通期（個別・連結）業績予想の修正の理由

< 個別 >

売上高は5,765百万円（前回予想比7.8%減少）、営業損失は169百万円（前回予想営業利益37百万円）、経常損失177百万円（前回予想経常利益25百万円）、当期純利益は15百万円（前回予想比97.2%減少）となる見込みであります。

通期においては、当上期の業績予想及び下期以降の当社を取り巻く外部環境を考慮し、業績予想を修正するものであります。当社個別の損益は、例年下期12月度の売上・利益がピークとして推移する一方で、下期の既存店の販売強化と本社費及び仕入原価等の店舗コストの削減効果を考慮しつつ、当上期の既存店の販売状況及び下期に見込まれるブライダル事業部の貢献、「2. 特別利益の計上について」に記載のとおり固定資産売却益等の影響を加味して下期予算の見直しを行なった結果、通期の個別業績予想を修正するものであります。

<連結>

売上高は14,346百万円（前回予想比8.4%減少）、営業利益は55百万円（前回予想比82.3%減少）、経常利益は39百万円（前回予想比86.8%減少）、当期純損失は275百万円（前回予想当期純利益522百万円）となる見込みであります。

通期においては、当上期の業績予想及び下期の当社グループを取り巻く外部環境を考慮し、業績予想を修正するものであります。株SALVATORE CUOMO JAPANの既存店の状況等を踏まえ同社の下期の利益予算を上方修正するものの、当社個別の要因と和伊授桌餐飲管理(上海)有限公司の減収減益要因を反映させた結果、連結業績予想を修正するものであります。

（注）業績予想につきましては、本資料の発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる可能性があります。

以 上